

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 3 区分

【発行日】平成 27 年 11 月 26 日 (2015.11.26)

【公表番号】特表 2014-533029 (P2014-533029A)

【公表日】平成 26 年 12 月 8 日 (2014.12.8)

【年通号数】公開・登録公報 2014-067

【出願番号】特願 2014-539392 (P2014-539392)

【国際特許分類】

H 0 4 N 19/132 (2014.01)

H 0 4 N 19/14 (2014.01)

H 0 4 N 19/176 (2014.01)

H 0 4 N 19/19 (2014.01)

H 0 4 N 19/48 (2014.01)

【F I】

H 0 4 N 19/132

H 0 4 N 19/14

H 0 4 N 19/176

H 0 4 N 19/19

H 0 4 N 19/48

【手続補正書】

【提出日】平成 27 年 10 月 5 日 (2015.10.5)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

インストラクションを格納するコンピュータ可読媒体であって、そのインストラクションが一つ以上のプロセッサによって実行されるとき、前記一つ以上のプロセッサに、
コンテキストベース適応 2 値算術コーディング (C A B A C) により符号化された係数の一つのセットを符号化器から受け取り、

前記 C A B A C により符号化された係数のセットを復号して、符号データを隠蔽可能なパーティションに対する残差ブロックを表し且つ符号の指定を有さない第 1 の非ゼロ係数を含む、係数の一つのセットを生成し、

関数を前記係数のセットに適用して符号データを生成し、且つ、

前記第 1 の非ゼロ係数に対する符号を前記符号データに基づいて指定する、

動作を実行させる、

コンピュータ可読媒体。

【請求項 2】

請求項 1 に記載のコンピュータ可読媒体において、

前記関数を前記係数のセットに適用する動作は、

前記係数のセット内の非ゼロ係数の和を計算し、

前記非ゼロ係数の前記和を用いてパリティデータを前記符号データとして計算する、

動作を備える、

コンピュータ可読媒体。

【請求項 3】

請求項 2 に記載のコンピュータ可読媒体において、

前記係数のセット内の前記非ゼロ係数の和を計算する動作は、前記係数のセット内の前記非ゼロ係数の絶対値の和を計算する動作を備える、
コンピュータ可読媒体。

【請求項 4】

請求項 2 に記載のコンピュータ可読媒体において、
前記第 1 の非ゼロ係数に対する前記符号を指定する動作は、
前記パリティデータの値が正の符号に割り当てられた特定値と等しいことを判定し、
前記パリティデータの値が前記正の符号に割り当てられた前記特定値と等しいと判定することに応じて、前記第 1 の非ゼロ係数に対して前記正の符号を指定する、
動作を備える、
コンピュータ可読媒体。

【請求項 5】

請求項 2 に記載のコンピュータ可読媒体において、
前記第 1 の非ゼロ係数に対する前記符号を指定する動作は、
前記パリティデータの値が負の符号に割り当てられた特定値と等しいことを判定し、
前記パリティデータの値が前記負の符号に割り当てられた前記特定値と等しいと判定することに応じて、前記第 1 の非ゼロ係数に対して前記負の符号を指定する、
動作を備える、
コンピュータ可読媒体。

【請求項 6】

請求項 1 に記載のコンピュータ可読媒体において、
前記動作は、
前記係数のセットにおける非ゼロ係数の数が閾値を満足することを判定し、
前記係数のセットにおける前記非ゼロ係数の数が前記閾値を満足すると判定することに応じて、前記閾値に基づいて、符号の指定を有さない非ゼロ係数の数を決定する、
動作を備える、
コンピュータ可読媒体。

【請求項 7】

請求項 6 に記載のコンピュータ可読媒体において、
前記関数を前記係数のセットに適用して前記符号データを生成する動作は、前記関数を前記係数のセットに適用して符号の指定を有さない複数の非ゼロ係数に対する前記符号データを生成する動作を備える、
コンピュータ可読媒体。

【請求項 8】

請求項 1 に記載のコンピュータ可読媒体において、
前記関数を前記係数のセットに適用する動作は、
前記関数のセット内の非ゼロ係数の和を計算し、
前記和と特定の数との間の除算に基づいて余りデータを計算する、
動作を備える、
前記第 1 の非ゼロ係数に対する前記符号を指定する動作は、
前記余りデータに基づいて、符号の指定を有さない前記非ゼロ係数のそれぞれに対する符号を指定する、
動作を備える、
コンピュータ可読媒体。

【請求項 9】

請求項 1 に記載のコンピュータ可読媒体において、
前記動作が、符号データ隠蔽符号化が前記係数のセットに対して可能であることを判定する動作を備える、コンピュータ可読媒体。

【請求項 10】

画像データの、符号データを隠蔽可能なパーティションを復号する復号器であって、

一つ以上のプロセッサ、及び、
前記一つ以上のプロセッサに接続されインストラクションを格納するコンピュータ可読媒体、
を備え、
そのインストラクションが前記一つ以上のプロセッサによって実行されるとき、前記一つ以上のプロセッサに、
コンテキストベース適応２値算術コーディング（ＣＡＢＡＣ）により符号化された係数の一つのセットを符号化器から受け取り、
前記ＣＡＢＡＣにより符号化された係数の前記セットを復号して、前記符号データを隠蔽可能なパーティションに対する残差ブロックを表し且つ符号の指定を有さない第１の非ゼロ係数を含む、係数の一つのセットを生成し、
関数を前記係数のセットに適用して符号データを生成し、且つ、
前記第１の非ゼロ係数に対する符号を前記符号データに基づいて指定する、
動作を実行させる、
復号器。

【請求項１１】

請求項１０に記載の復号器において、
前記関数を前記係数のセットに適用する動作は、
前記係数のセット内の非ゼロ係数の和を計算し、
前記非ゼロ係数の和を用いてパリティデータを前記符号データとして計算する、
動作を備える、
復号器。

【請求項１２】

請求項１１に記載の復号器において、
前記係数のセット内の前記非ゼロ係数の和を計算する動作は、前記係数のセット内の前記非ゼロ係数の絶対値の和を計算する動作を備える、
復号器。

【請求項１３】

請求項１１に記載の復号器において、
前記第１の非ゼロ係数に対する前記符号を指定する動作は、
前記パリティデータの値が正の符号に割り当てられた特定値と等しいことを判定し、
前記パリティデータの前記値が前記正の符号に割り当てられた前記特定値と等しいと判定することに応じて、前記第１の非ゼロ係数に対して前記正の符号を指定する、
動作を備える、
復号器。

【請求項１４】

請求項１１に記載の復号器において、
前記第１の非ゼロ係数に対する前記符号を指定する動作は、
前記パリティデータの値が負の符号に割り当てられた特定値と等しいことを判定し、
前記パリティデータの前記値が前記負の符号に割り当てられた前記特定値と等しいと判定することに応じて、前記第１の非ゼロ係数に対して前記負の符号を指定する、
動作を備える、
復号器。

【請求項１５】

請求項１０に記載の復号器において、
前記動作が、符号データ隠蔽符号化が前記係数のセットに対して可能であることを判定する動作を備える、復号器。